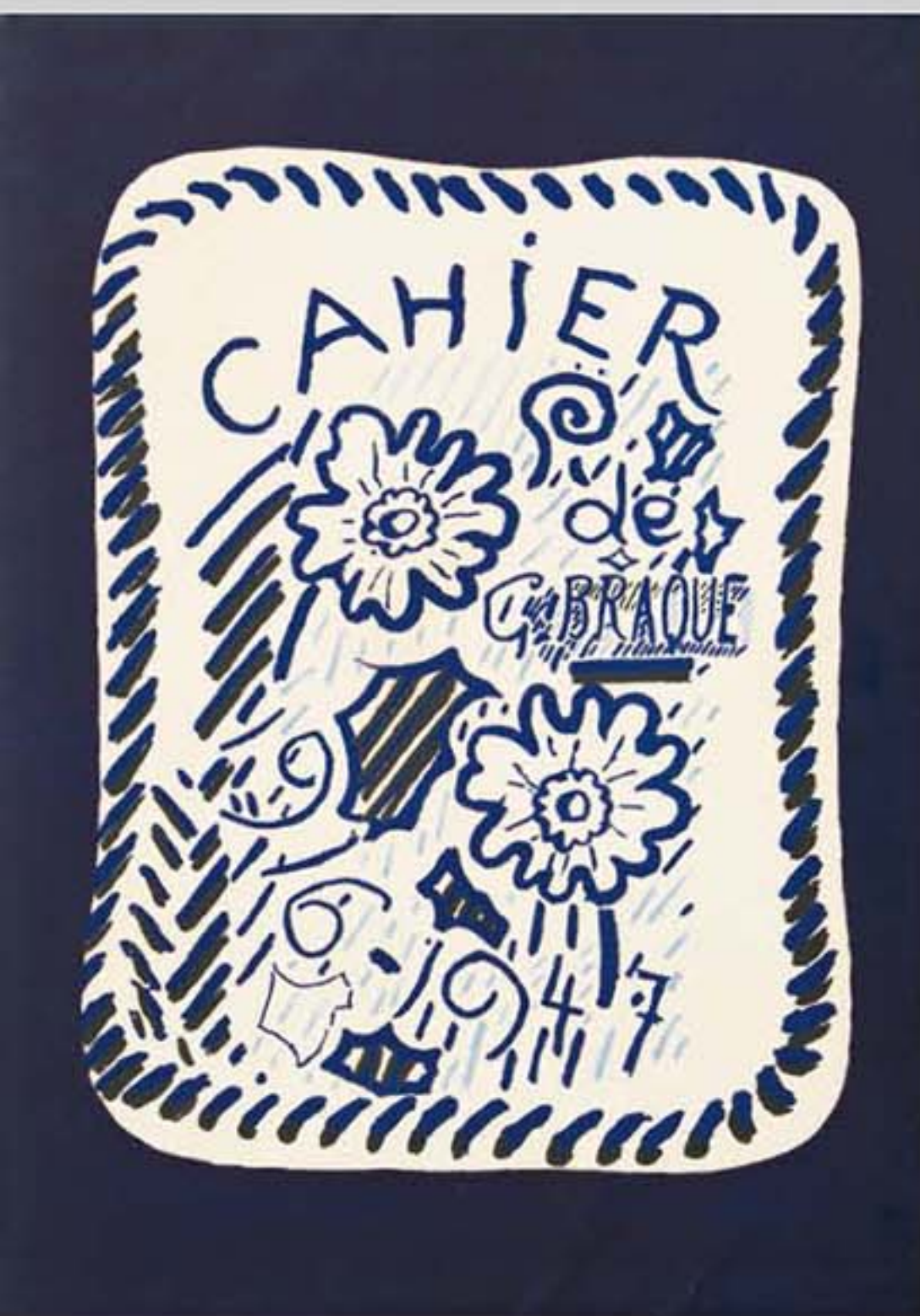




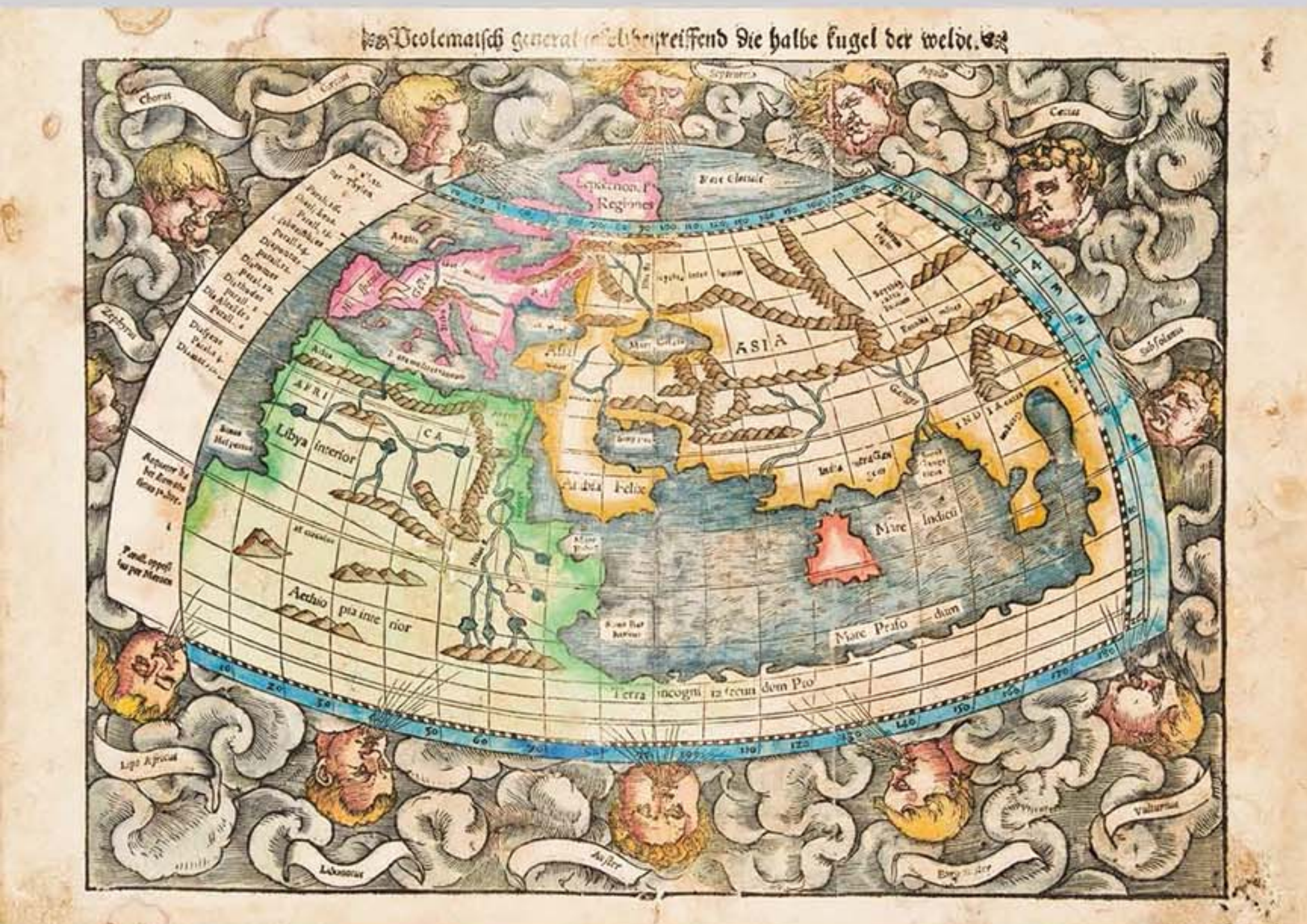
↑01



↑02



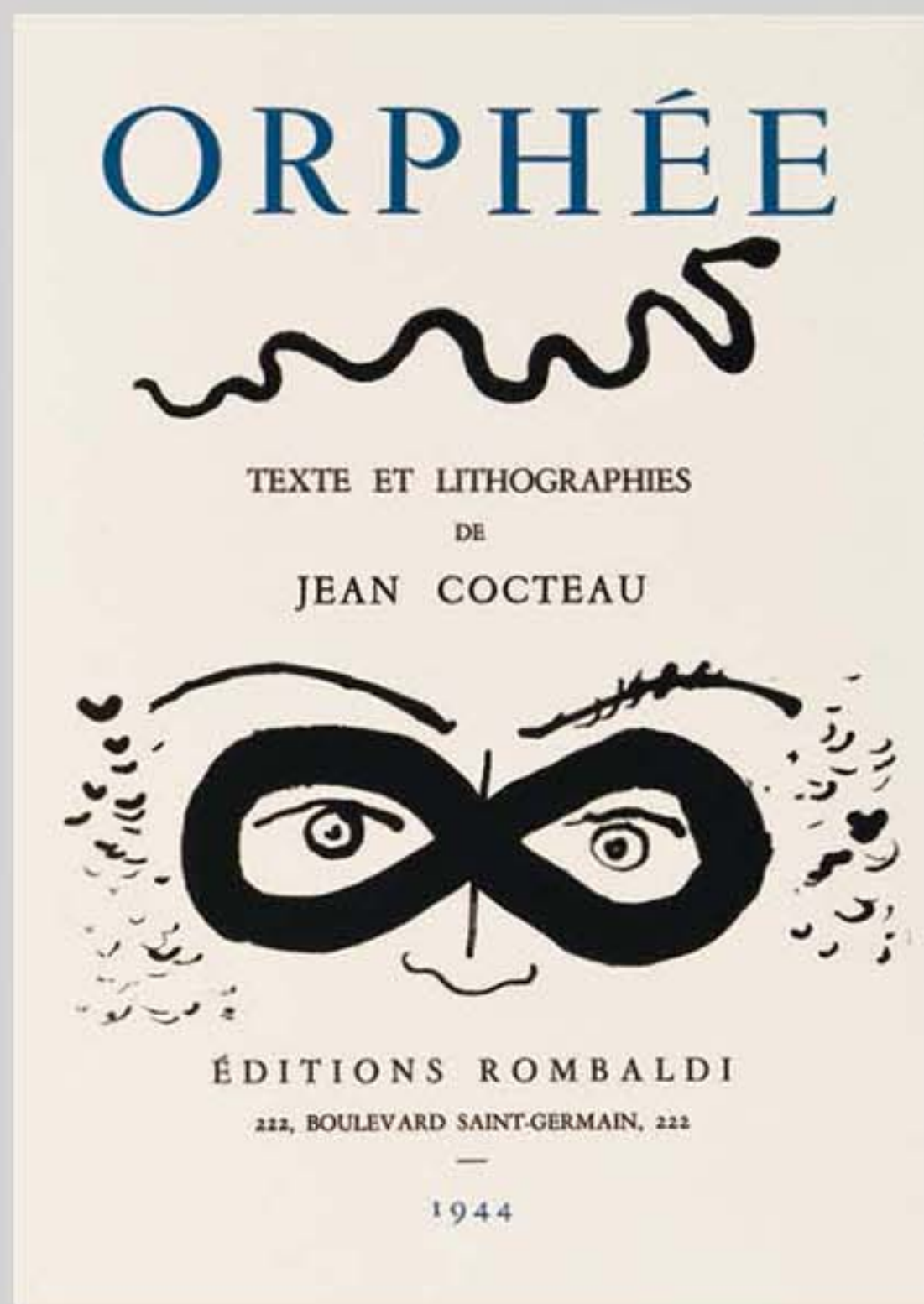
↑03



↑04



↓07



↓06



↓05

THE POSSIBILITY OF ILLUSTRATION

イラストレーションがあれば、



↑08



↑09



↑10



↑11



↑12



↑13

↓14



「休館日」日曜日
「開館時間」午前10時—午後6時
※土曜祝日は午後5時閉館

「主催」武蔵野美術大学美術館・図書館
167-8505 東京都小平市小川町1-736
Tel: 042-342-6003 <https://mauml.musabi.ac.jp>

イラストレーションと聞き、何を想像しますか。安西水丸の作り出すポップで爽やかな世界、宇野亞喜良の描く繊細で甘美な情景——みなさんの頭のなかには、様々なイメージが浮かぶのではないのでしょうか。美術評論家の中原佑介が、広大なイラストレーションという領域を考える上で、なによりもまず「世界地図」を「世界のイラストレーション」と例に挙げたことは、少し意外なことに感じるかもしれません。

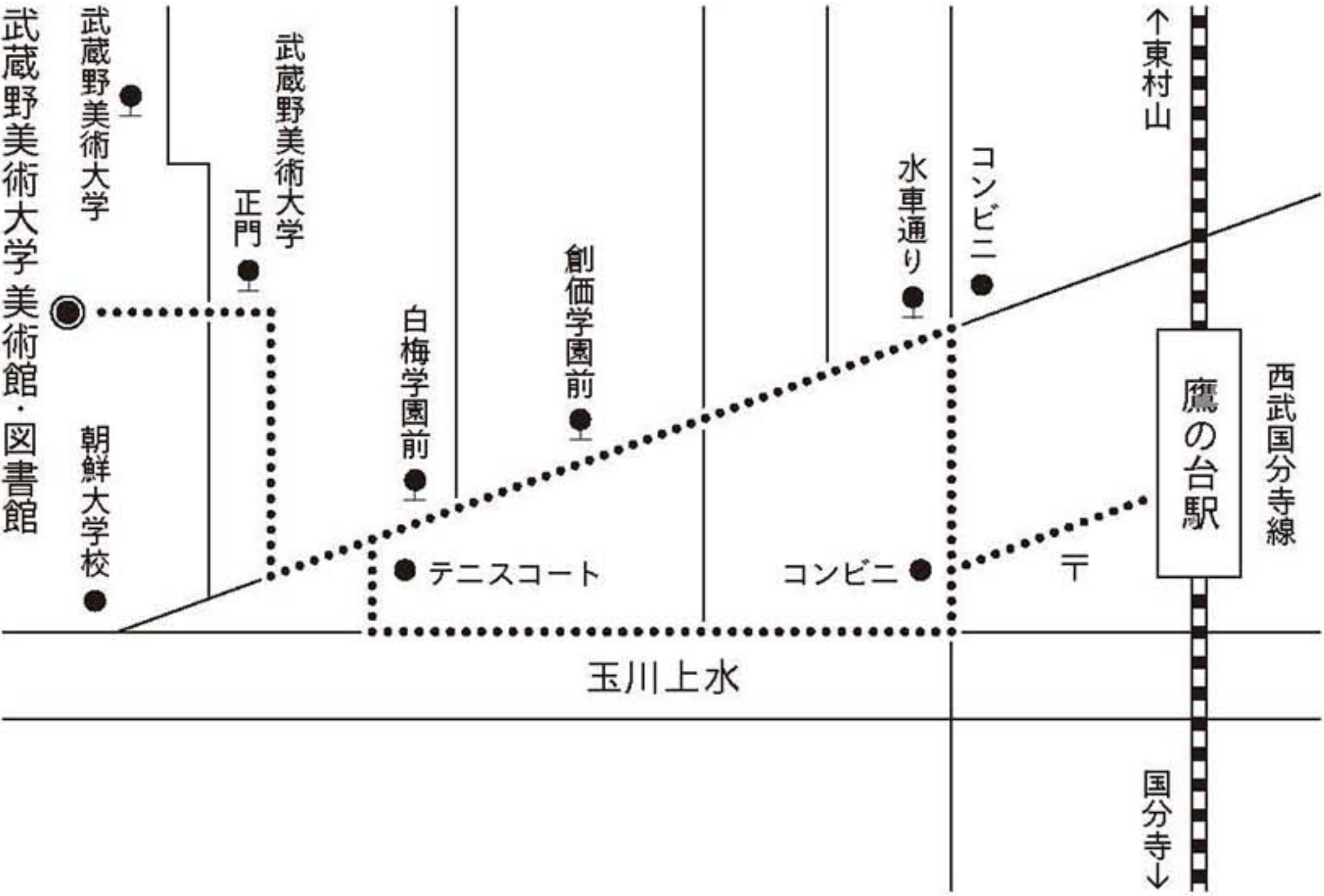
西洋における「illustration」は、印刷技術の発展とともに書物や雑誌と深く結びつき、社会や文化を映し出しながら歴史を重ねてきました。日本では1960年代以降、イラストレーターの活躍をきっかけとして独自の発展を遂げ、今日的な「イラストレーション」の概念が一般に定着したといえます。

本展では当館コレクションより、中世の彩飾写本や16世紀の世界地図、現代のポスターまで、西洋と日本のイラストレーションをめぐり、幅広い時代の作品を展観します。現代日本の「イラストレーション」の源泉ともいえる西洋の「illustration」の実体、日本の多彩な「イラストレーション」を生んだイラストレーターの存在を探りながら、その可能性を紐解きます。

- 【アクセス】
- ・西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩18分
 - ・国分寺駅北口徒歩3分、西武バス「武蔵野美術大学」行き、または「小平営業所」行きに乗り、武蔵野美術大学正門下車（バス所要時間 約20分）
 - ・立川駅北口（5番乗り場）より立川バス「武蔵野美術大学」行きに乗り、武蔵野美術大学下車（バス所要時間 約25分）

※お車でのご来館はご遠慮ください。

【武蔵野美術大学 美術館・図書館】
187-8505
東京都小平市小川町1-736
Tel: 042-342-6003
<https://mauml.musabi.ac.jp>



同時開催展覧会 — 「脇谷徹一 素描ということ」
2020年9月21日（月・祝）— 10月24日（土）

MUUM&L

GRAPHIC DESIGN: SO HASHIZUME (SO)

- 【表】
- 01 湯村輝彦 [A.I. (Amnesty International)] 1980年 ● Terry Johnson ● 02 ジョルジュ・ラック『ラックの手帖 1917-1955』1956年（表紙） ● 03 田中一光 [Nihon Buyo] 1981年 ● Ikko Tanaka / licensed by DNPartcom ● 04 [世界地図] 16世紀ごろ
 - 05 大橋正 [明治チヨコレート] 1955年 ● 06 ジェン・コクトー『オルフェ』1944年 ● 07 湯村輝彦 [Asunaro] 1982年 ● Terry Johnson ● 08 山下勇三 [六輔七難八苦展] 1976年
 - 09 アンソルマス・ヴェサリウス『人体の構造について』(1543年) フラクシミリ版、1976年 ● 10 福田繁雄 [見ないでさわぐ日本人] 1965年 ● 11 安西水丸『バイヤ』1987年 ● 12 木村恒久 [第17回日宣美展] 1967年
 - 13 ジョルジュ・ラック『ラックの手帖 1917-1955』1956年（表紙） ● 14 『パン』創刊号、1895年
 - 15 デイトロ、ダランベールほか編『百科全書』1751-1772年 ● 16 『ヴェル・サクルム』創刊号、1898年（表紙） ● フラックス・ローラー ● 17 宇野亞喜良 [越路吹雪リサイタル] 1965年 ● 18 和田誠 [本格派のシルシ愛されるピース] 1961-1964年
 - 19 矢吹申彦 [阿佐ヶ谷美術学園] 1976年 ● 20 トマス・マロー『アーサー王の死』1894年（挿絵） ● オーナー・ビズラー ● 21 『トリノ=ミラノ時待書』(16世紀) フラクシミリ版、1997年

